

2023 年度 海外渡航助成金 成果報告書

国立研究開発法人海洋研究開発機構 研究員

奥田 花也

2023 年 12 月 11 日から 15 日まで、アメリカ・サンフランシスコで行われたアメリカ地球物理学連合 (American Geophysical Union: AGU) の Fall meeting に海外渡航旅費助成金のサポートにより参加しました。博士課程の三年間がコロナ禍とかぶっていたため、これまで AGU に現地参加したことはなく、世界中から研究者が集まる AGU で自分の研究に関して議論することを楽しみにしていました。今回は”Slip-weakening behavior of volcanic glass-smectite mixture at intermediate velocity conditions: implication for slow earthquakes”と題して、火山ガラスとスメクタイトの混合物が中速度域で見せるすべり弱化学動について報告し、浅部スロー地震の発生メカニズムへの寄与についてのポスター発表を行いました。この内容は今年度 Journal of Geophysical Research (JGR): Solid Earth 誌に掲載されたものですが、今回のポスター発表中に話をすると、「知らなかった、おもしろいね」などの反応があり、自分の研究を知ってもらい、議論してもらうためには、論文と同様に学会で発表することによって世界中の人に自分の研究を発信していく必要があると再認識しました。

自分の研究分野である岩石力学の最近の動向としては、岩石の変形過程を acoustic emission から詳細にみる研究が活発になっており、固体地球科学だけでなく地熱開発などのセッションでも発表がありました。そのため、初日の最初のセッションから最終日の最後のセッションまで、ほぼ途切れることなく口頭発表やポスター発表を聞いていましたが、複数のセッションが並列して行われていたために残念ながら聞けなかったものもありました。これは規模の大きい AGU ならではの贅沢な悩みかもしれません。日本では研究者人口の少ない岩石力学ですが、海外をみると、主に地熱開発分野の後押しもあって同世代の若手研究者がちらほらといることもわかり、自分の発表だけでなく、それぞれのポスターの前やランチタイム、夕食時などで一緒にディスカッションをすることができました。その中でお互いに関連する先行研究を紹介したり、実験データを見せあったりなど、とても有意義なものであったように感じます。

最後になりますが、コロナ禍による規制はなくなったものの、最近の円安事情により海外渡航が未だに困難である中で、今回の AGU への参加のサポートをしてくださった日本地震学会および関係者の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。